

シンポジウム

外国人児童生徒の日本語学習支援をめぐる ソーシャルネットワーク

本日はご参加くださり、ありがとうございます

- ① マイクオフ・ビデオオフでご参加ください。
- ② 録画・録音はお控えください。また、後日の録画公開の予定はございません。ご了承ください。
- ③ 本日の資料は、こちらのサイトからダウンロードしていただけます。

<https://is.gd/aqxVxO>

- ④ 本日のご質問・ご感想を、こちらにお寄せください。

<https://bit.ly/3dFQpvA>



本日の流れ

13:00-14:00

【事業全体の概要】

生きる力を育む持続可能な学びの場のデザインを目指して

澤田浩子（筑波大学・人文社会系）

14:00-14:30

地域とつながる大学生サポーターの成長を促す

カリキュラムの実践と展開

入山美保（筑波大学・人文社会系）

14:30-15:00

対話型アセスメント(DLA)をツールとした

コーディネーターの実践と展開

井上里鶴（つくばにほんごサポート）

15:00-15:30

全体討論

ご挨拶

入之内昌徳（茨城県教育庁 学校教育部義務教育課）

田村美枝子（茨城県県南教育事務所 学校教育課）

ご質問・ご感想は、随時ご記入ください。お一人何度でも書き込むことができます。

ご質問は、**発表の終わり10分**、あるいは**全体討論**で取り上げさせていただきます。

時間の都合上、すべてのご質問にお答えできない場合があります、ご了承ください。

謝 辞

本事業ご関係の皆さま

茨城県教育庁 学校教育部義務教育課

茨城県県西事務所 学校教育課

茨城県県南事務所 学校教育課

茨城県筑西市教育委員会

茨城県阿見町教育委員会

茨城県筑西市立下館南中学校

茨城県阿見町立朝日中学校

筑波大学 日本語サポーターの皆さん

シンポジウム開催にあたって：

五十嵐真結さん（筑波大学 人文・文化学群日本語・日本文化学類 4年）

古谷梨菜さん（筑波大学 人文・文化学群日本語・日本文化学類 4年）

大竹春菜さん（筑波大学 人文社会科学研究科国際日本研究専攻 1年）

付記

主催：

筑波大学人文社会系リサーチグループ「多文化的背景を持つ児童生徒教育のための研究グループ」

研究助成・活動助成：

- ▶ 茨城県教育委員会グローバル・サポート事業 委託研究
「オンライン学習による日本語初期指導カリキュラム開発・検証に関する研究」
- ▶ 筑波大学新型コロナウイルス緊急対策のための大学「知」活用プログラム
「循環型社会を目指した外国人児童生徒のためのオンライン日本語支援体制の構築」
- ▶ 筑波大学人文・文化学群日本語・日本文化学類教育戦略推進プロジェクト
「多文化共生時代のための教育課程の質保証と教学マネジメントの強化」
- ▶ 令和2年度筑波大学社会貢献プロジェクト
「つくば市における外国人児童生徒支援体制の構築」
- ▶ JSPS 科研費（20K00696 基盤研究(C)）
「外国人住民への地域的包括的支援のための基礎的研究」

シンポジウム

「外国人児童生徒の日本語学習支援をめぐるソーシャルネットワーク」

【事業全体の概要】

生きる力を育む持続可能な
学びの場のデザインを目指して

澤田浩子（筑波大学・人文社会系）

発表の流れ

1. はじめに
2. 事業の概要
3. 「生きる力を育む」日本語支援のために
4. 「生きる力を育む」サポーター育成のために
5. 今後の展望：
ソーシャルネットワークとしての日本語支援

1. はじめに

筑波大学の近年の取り組み

- 2014.4. 小中学校での日本語教育に「特別の教育課程」制度導入
- 2017.3. 「学習指導要領」改訂
- 2019.6. 「日本語教育の推進に関する法律」施行

「日本語指導が必要な児童生徒」一人ひとりに応じた指導の必要性

日本語・日本文化学類

多文化共生・日本語教育 科目群

「日本語教育文法論」
 「第二言語習得論」
 「外国人児童生徒教育論」
 「異文化間心理学」
 「海外の日本語教育と日本学」
 「多文化の中の日本」
 「ICTと言語教育」

など



新カリキュラムの導入

教職課程との連携
 「日本語学習支援者養成」修了証プログラム

一般公開講座
 筑波大学エクステンションプログラム

1. はじめに

地域社会と連携した人材育成

2019.4. つくば日本語支援プラットフォーム

- ・つくば市教育委員会
- ・つくば市国際交流協会
- ・市民ボランティア団体
- ・筑波学院大学
- ・筑波大学

インターンシップの単位認定科目
つくば市内の小中学校へ
日本語ボランティアとして学生を派遣

地理的な制約から、派遣できるのは
大学近隣の学校のみ

つくば市における日本語支援の地域的偏り
c.f. 山崎・金久保(2010)



1. はじめに

地域的偏りをなくす
教育の広域連携を目指して

茨城県「日本語の指導が必要な児童生徒」
約1,500人

- ・ 外国人集住地域 = 日本語指導担当の加配教員アリ
約1,000人
- ・ **外国人散在地域** = 日本語指導担当の加配教員ナシ
約 500人

茨城県グローバル・サポート事業
2020.4～ オンライン日本語支援事業

研究委託：筑波大学人文社会系

担当教員：澤田浩子（人文社会系・准教授）
松崎 寛（人文社会系・准教授）
入山美保（人文社会系・助教）

日本語コーディネーター：
井上里鶴（つくばにほんごサポート）



2. 事業の概要

▶ 筑西市立下館南中学校

5名

写真

▶ 阿見町立朝日中学校

4名

写真



▶ 筑波大学

7月「外国人児童生徒支援研究」(1単位)
日本語サポーターの養成

25名

写真

10月「外国人児童生徒支援実習」(3単位)
日本語サポーターとしての活動

14名



支援対象の生徒 (2020年10月～)

生徒数	9名 (1年生 5名、2年生 4名)
生徒の国籍・ルーツ	フィリピン、タイ、ベトナム、スリランカ、パキスタン など
支援開始時の滞日歴	3カ月、1年、1年半、8年、10年、12年 など

日本語サポーター (2020年10月～)

学生数	14名 (2年生6名、3年生5名、4年生2名、研究生1名)
所属学類	日本語・日本文化学類 10名 人文学類 1名 教育学類 2名 障害科学類 1名

- ▶ 支援は「**取り出し型指導**」（在籍学級を抜けて別室での指導）です。
- ▶ 支援にはzoomを使っています。学校側では教員が立ち会います。

動 画

* 支援時の録画については、事前に生徒・保護者に説明の上、同意書に署名をいただいてから実施しています。また、生徒の人権及び個人情報等の保護に関して、筑波大学人社会系倫理審査委員会の審査・承認（2019年9月）を経て、十分に留意した上で研究を行っております。本日の公開にあたり映像・音声を一部処理しております。

- ▶ 授業の目標は「**自己紹介ができるようになる**」です。
- ▶ 文型「～は～にいます」「～は～から来ました」を導入しながら、サポーター自身が自己開示し、モデル発話を示しているところです。
- ▶ PowerPoint を zoom の画面共有機能で表示し、操作しています。

動 画

* 本日の公開にあたり映像・音声を一部処理しております。

「○○ちゃんはどこから来ましたか？」など、生徒の名前を呼んでいる箇所を無音処理しています。

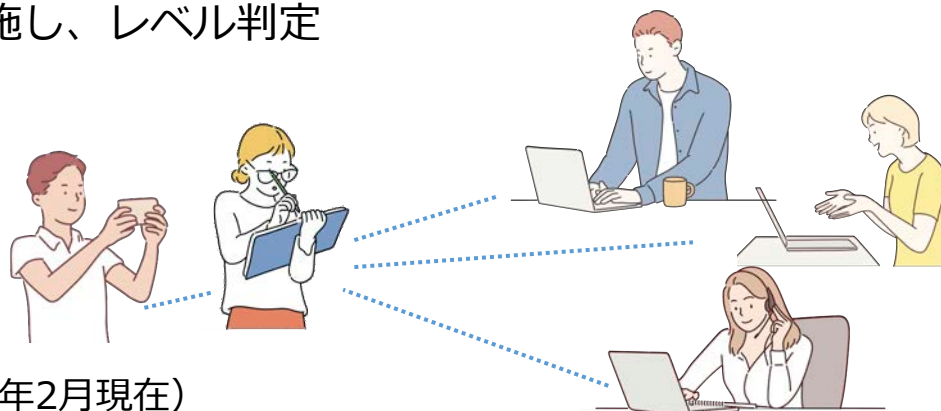
2. 事業の概要

中学校

授業時間中の「取り出し型指導」1コマ50分

1人の生徒あたり、週3回

日本語のアセスメントを実施し、レベル判定



大学生 日本語サポーター

事前に空き時間を申請しマッチング

基本的に**3人1チーム**で支援

日本語サポートの時間割（2021年2月現在）

[illegible]

写真

茨城新聞2020年12月6日

写真

茨城新聞2021年1月4日

3. 「生きる力を育む」日本語支援のために

(1) 生徒・保護者・学校との連携体制

(2) アセスメントに基づく支援計画

(3) Can-do ベースの学習活動



3. 「生きる力を育む」日本語支援のために

(1) 生徒・保護者・学校との連携体制

日本語支援の目的や方法を共有

① 保護者からの聞き取り

保護者



生徒



担任教員
校長・教頭等
学校



日本語サポーター
教員等
大学

② 教員からの聞き取り

写真

2020年9月8日 下館南中学校説明会

写真

2020年9月30日 朝日中学校説明会

3. 「生きる力を育む」日本語支援のために

(1) 生徒・保護者・学校との連携体制

日本語支援の目的や方法を共有

① 保護者からの聞き取り

保護者



生徒

③ 生徒との交流会



日本語サポーター
教員等
大学

担任教員
校長・教頭等
学校



② 教員からの聞き取り

写真

2020年9月28日 下館南中学校交流会

写真

2021年1月14日 朝日中学校交流会

3. 「生きる力を育む」日本語支援のために

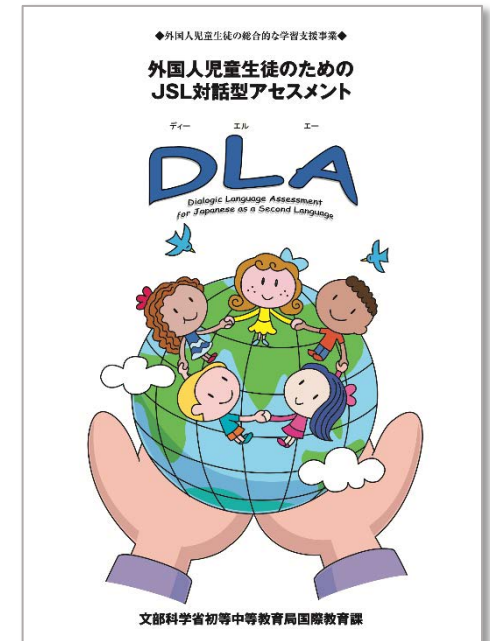
(2) アセスメントに基づく支援計画

- ▶ 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント「DLA」
Dialogic Language Assessment for Japanese as a Second Language

【対象】 日常会話はできるが、**教科学習に困難**を感じている児童生徒

【目的】 子どもの**ALP（教科学習言語能力）**を把握し、どのような学習支援が必要か、教科学習支援のあり方を検討する

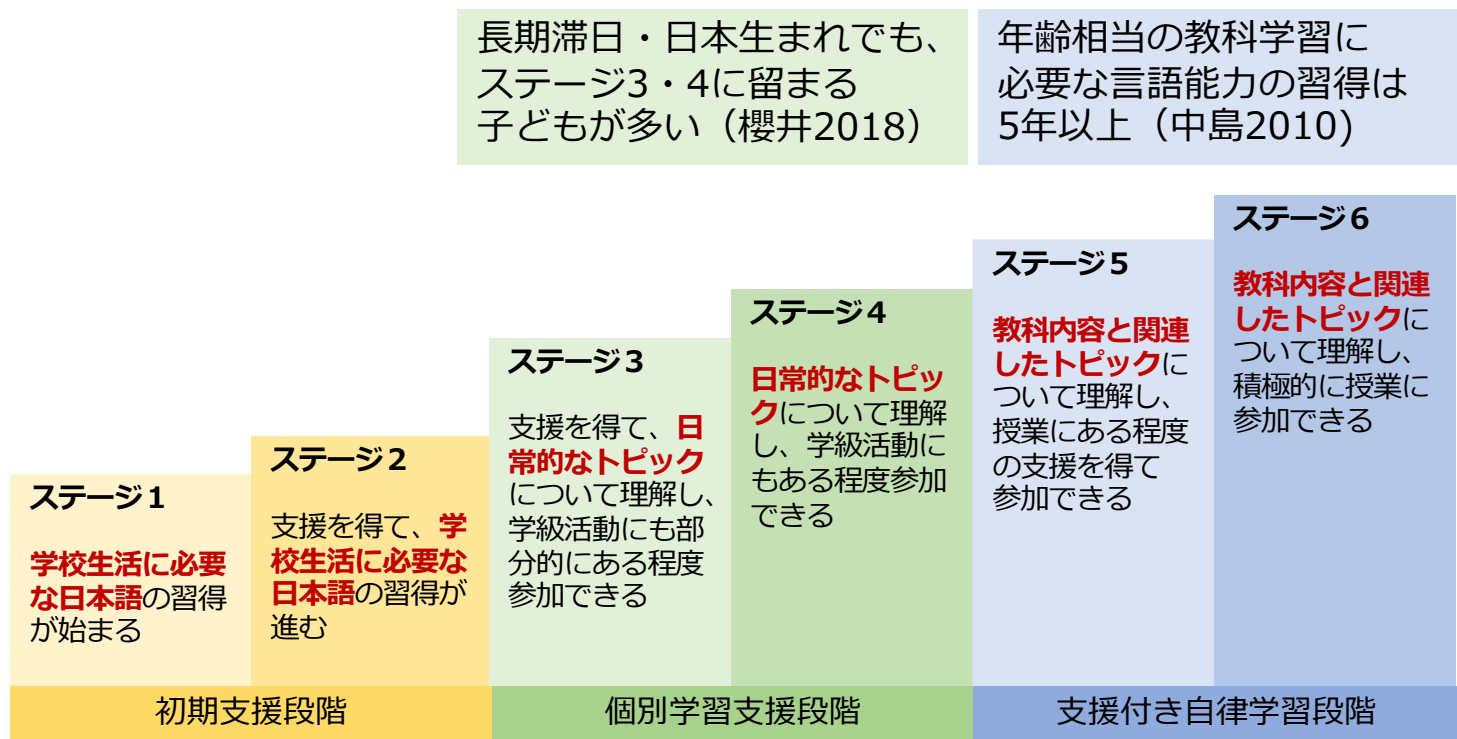
【特徴】 一対一で向き合う「**対話**」を基本とし、一番早く伸びる会話力を使って、紙筆テストでは現れない子どもたちの**潜在的な力**を引き出す



3. 「生きる力を育む」 日本語支援のために

(2) アセスメントに基づく支援計画

- ▶ 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント「DLA」による評価参照枠
Dialogic Language Assessment for Japanese as a Second Language



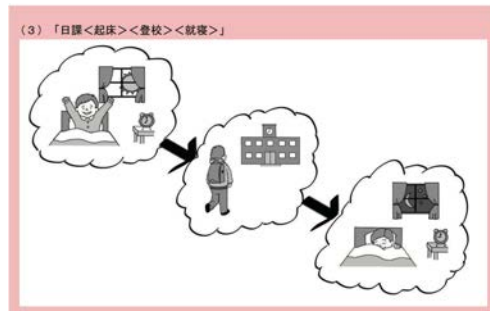
3. 「生きる力を育む」 日本語支援のために

自己のproficiency（熟達度）を知ることが
学習動機につながる（嶋田2014）

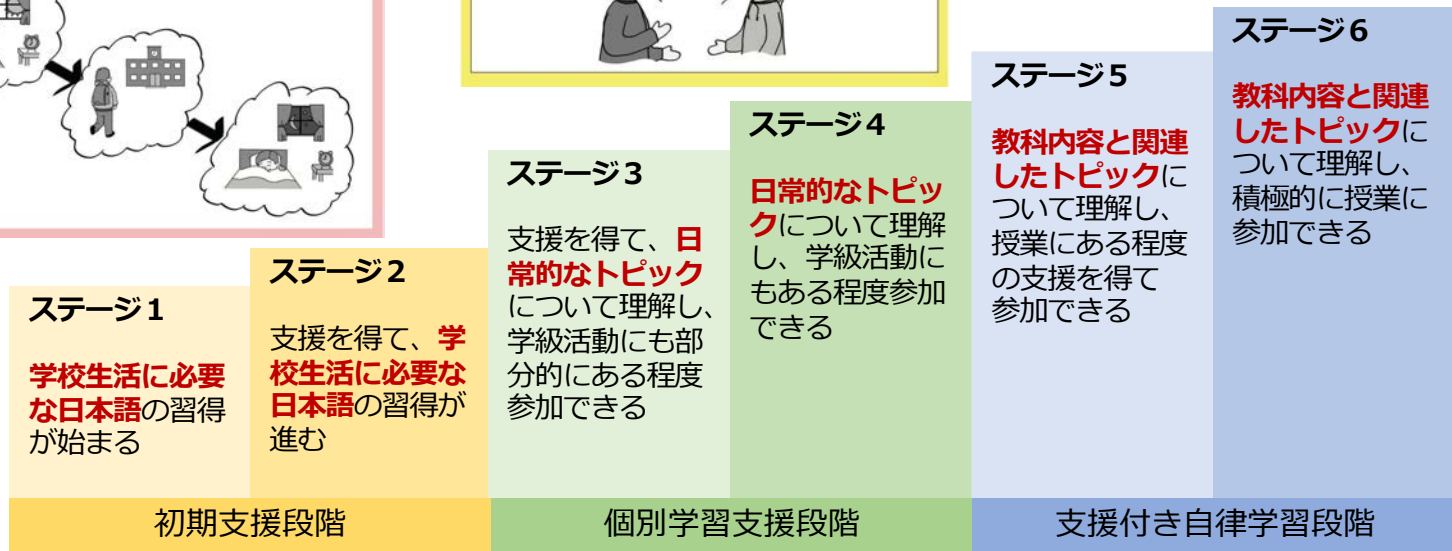
▶ 認知タスク
教科と関連した内容について、
まとまりがある話ができるか測る



▶ 基礎タスク
初期日本語指導の段階で
学習する**文型の定着度**を測る



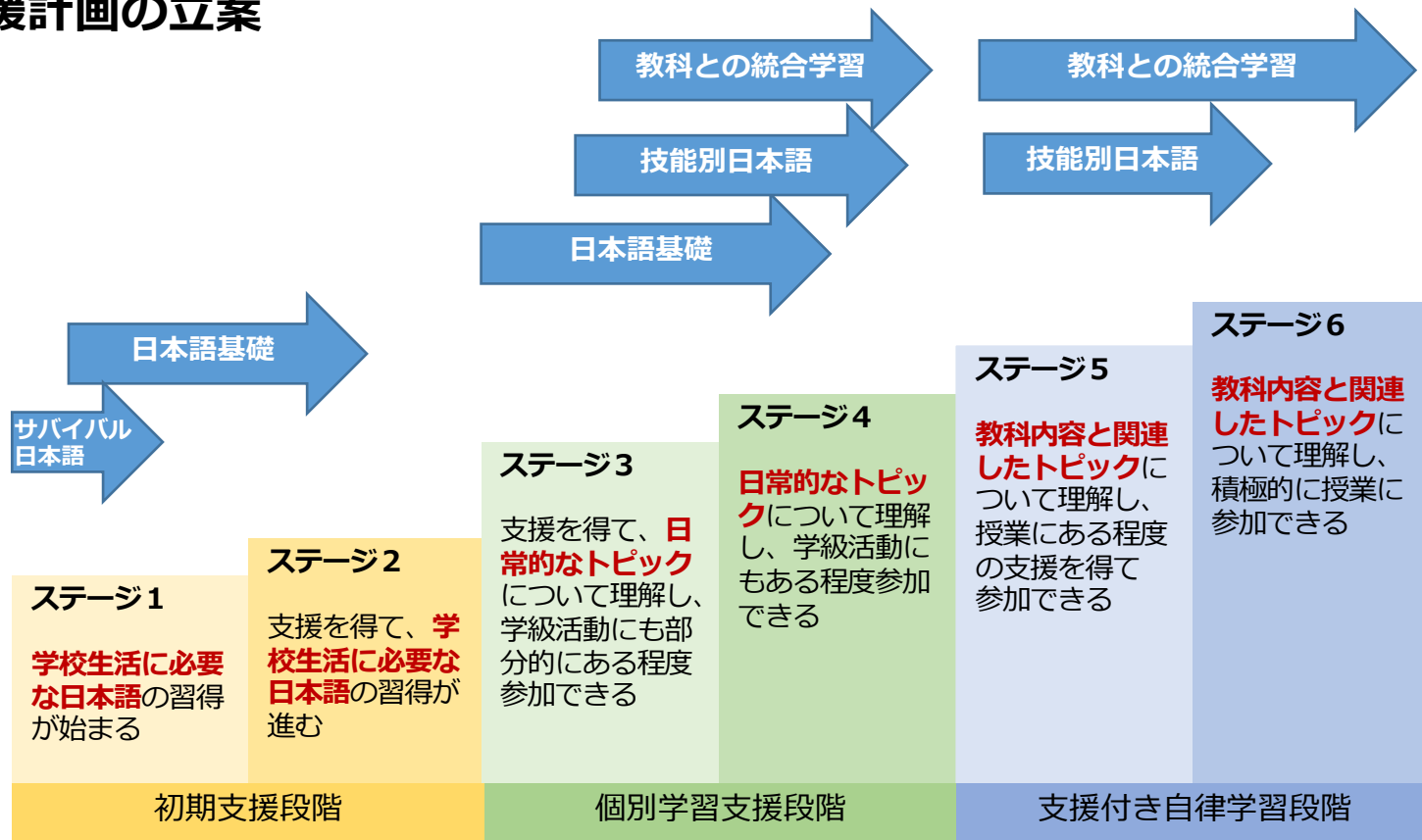
▶ 対話タスク
状況・必要に応じて自ら発話し、
会話をリードする力を測る



3. 「生きる力を育む」 日本語支援のために

(2) アセスメントに基づく支援計画

生徒一人ひとりに合った
個別の支援計画の立案



3. 「生きる力を育む」日本語支援のために

▶ 生徒D（ステージ3）のカリキュラム 支援開始時（2020.10）

日付	Can-do	日本語基礎	文型
10月2日	<ul style="list-style-type: none">好きな食べ物、嫌いな食べ物とその理由を説明できるようになる。味覚を表す言葉を用いて料理を説明できるようになる。		<ul style="list-style-type: none">「〇〇けど、～です。」「〇〇から、～です。」「〇〇で～です。」
10月5日	<ul style="list-style-type: none">友だちとしゅみについて話せるようになる。		<ul style="list-style-type: none">「休みの日はいつもなにしてる？」 「だいたい〇〇してる。」
10月6日	<ul style="list-style-type: none">～たい/～たくないを使って自分の願望とその理由を伝えることができる。～たいを使って相手の願望とその理由を聞くことができる。		<ul style="list-style-type: none">「～たい/～たくない」「それに~/でも～」
10月12日	<ul style="list-style-type: none">友だちと将来の夢について話せるようになる。「どうして」という質問に対して理由を答えることができるようになる。		<ul style="list-style-type: none">「どうして」「～だから」「～から」「～つもり」
10月16日	<ul style="list-style-type: none">友だちを誘えるようになります。「楽しそう」「おいしそう」「大変そう」などの感想を言えるようになります。		<ul style="list-style-type: none">「いっしょに〇〇へ行きませんか。」「いっしょに〇〇に行きませんか。」「〇〇そうですね」

3. 「生きる力を育む」日本語支援のために

▶ 生徒D（ステージ3）のカリキュラム 支援開始後 2ヶ月（2020.12）

日付	Can-do	技能別日本語	文型
12月1日	・英会話部の 活動内容 が 言えて書ける ようになる。		・「NはV-るのが～です」 ・「～たり～たりします」
12月2日	・ 研修 についての 作文 を書く。		・「また」 ・「～たり、～たりしました。」
12月7日	・いろんな 人 について 紹介 できるようになる。		・「私は」と「私には」の違い ・「人が～する」「ものを～する」の違い
12月8日	・ 接続詞 を使えるようになる。 ・研修の作文を完成させる。		・「しかし、だから、特に、また」 ・「～から〇〇まで」
12月9日	・ 日本とフィリピンの違い を説明する文章が書ける。		・「～が」「～ですが」「～だと思う」

3. 「生きる力を育む」 日本語支援のために

▶ 生徒A（ステージ5）のカリキュラム 支援開始後 3ヶ月（2021.1）

日付	Can-do	教科との統合学習	文型
1月15日	【数学】 比例と反比例 のグラフが書けるようになる。		—
1月15日	【理科】 物質の密度 について理解する。		—
1月21日	【地理】 ・ アジア州の5つの 地域の名前 と場所を言うことができる。 ・ アジア州で主に信仰されている4つの 宗教の分布と特徴 を説明できる。 ・ アジア州の 経済成長をグラフから読み取る ことができる。		—
1月22日	【数学】 反比例 のグラフが書けるようになる。		—
1月22日	【理科】 物質の状態変化 について理解する。		—

3. 「生きる力を育む」日本語支援のために

(3) Can-doベースの学習活動

「学習の記録」

写真

写真

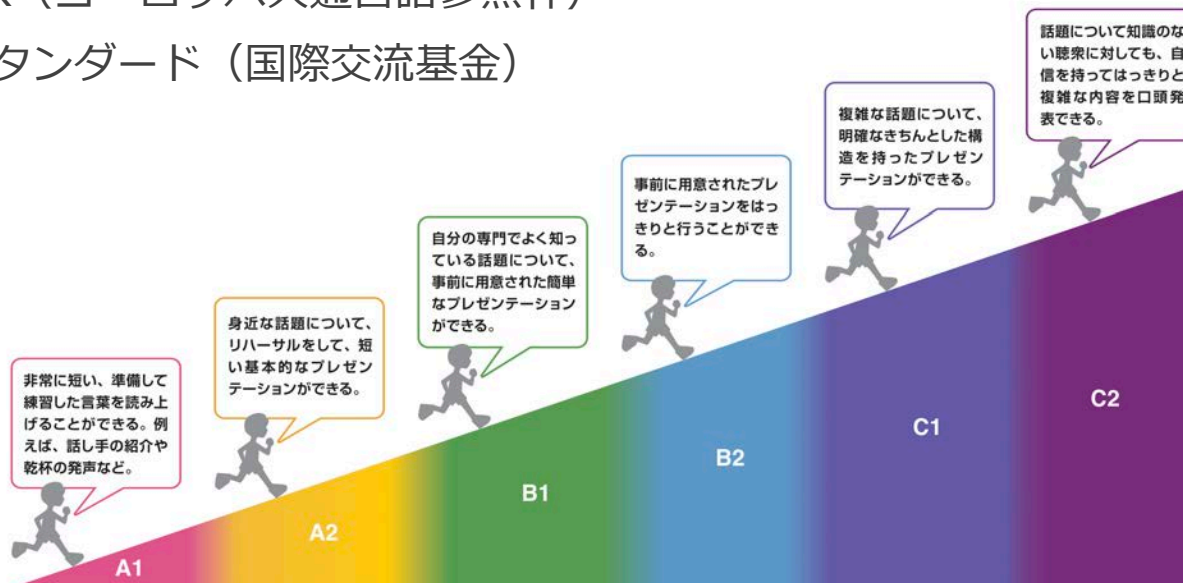
3. 「生きる力を育む」 日本語支援のために

(3) Can-doベースの学習活動

▶ Can-doを目標とした学習

言語能力を、その人がその言語で何ができるかでとらえる考え方

- CEFR (ヨーロッパ共通言語参照枠)
- JFスタンダード (国際交流基金)



3. 「生きる力を育む」 日本語支援のために

(3) Can-doベースの学習活動

JFスタンダード「Can-do の15のトピック」

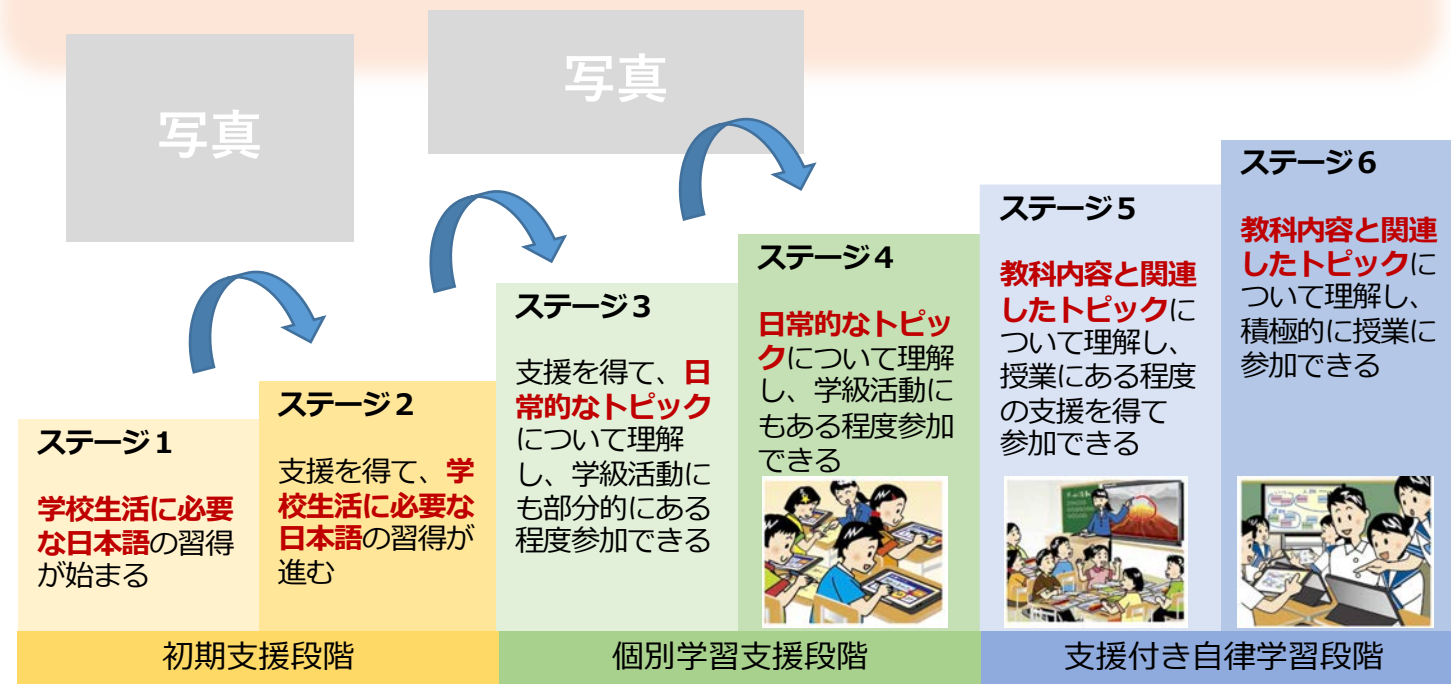
	トピック	トピックの説明
1	自分と家族	自分や家族に関すること（家族構成、身体的特徴など）
2	住まいと住環境	住居や居住地域に関すること（部屋、家具、周辺施設など）
3	自由時間と娯楽	余暇や趣味に関すること（スポーツ、映画、音楽など）
4	生活と人生	日常生活やライフステージに関すること（日課、入学、結婚、子育てなど）
5	仕事と職業	仕事と職業に関すること（企業、職種、職務など）
6	旅行と交通	旅行と交通に関すること（旅程、公共交通機関、観光など）
7	健康	身体や健康に関すること（病気、通院、生活習慣など）
8	買い物	買い物に関すること（店、支払いなど）
9	食生活	食生活に関すること（飲食、レストラン、料理など）
10	自然と環境	自然や環境に関すること（天候、季節、環境問題など）
11	人との関係	人づきあいに関すること（交際、トラブル、マナーなど）
12	学校と教育	教育機関や教育に関すること（学校、学習環境、教材など）
13	言語と文化	言語や文化に関すること（外国語、冠婚葬祭、伝統文化、ポップカルチャー、異文化体験など）
14	社会	社会に関すること（政治、産業、経済、国際関係など）
15	科学技術	科学技術に関すること（最新テクノロジー、サイエンス、メディアなど）

3. 「生きる力を育む」 日本語支援のために

「人と人をつなぐシステム」を
組み込めるオンライン学習支援

子どもの言語習得が進む環境

- ① **理解可能なインプット** “ $i+1$ ” (Krashen 1980)
- ② **自発的発話**： 話したい、聞いてもらいたいという欲求に基づく発話
- ③ **ラポール** (共感的信頼感)： 視線、声質、励まし = 他者からの関わり行動



在籍学級でのインクルーシブな学びを促進するICT技術

4. 「生きる力を育む」サポーター育成のために

・地域とつながる力

支援デザインシートの作成

教材の作成

支援の実施



担任、指導担当教員



定期的なミーティング
日々のLINEチャット

- ・支援計画の相談
- ・互いの活動への励ましや助言



ピア・サポーター

- ・支援活動の補助
- ・生徒の様子の共有

- ・コメント
- ・定期試験の結果の共有

デイリーレポートの記入

自己評価シートの記入

ピア評価シートの記入



学校とサポーターとの連絡会

- ・DLA結果の共有
- ・学校での生活や学習の様子の共有
- ・支援方法の相談

4. 「生きる力を育む」 サポーター育成のために

- ・ 地域とつながる力
- ・ 自己を振り返り成長する力



毎週の支援の準備



チームメンバーとの連携



学校の先生方 とのやりとり

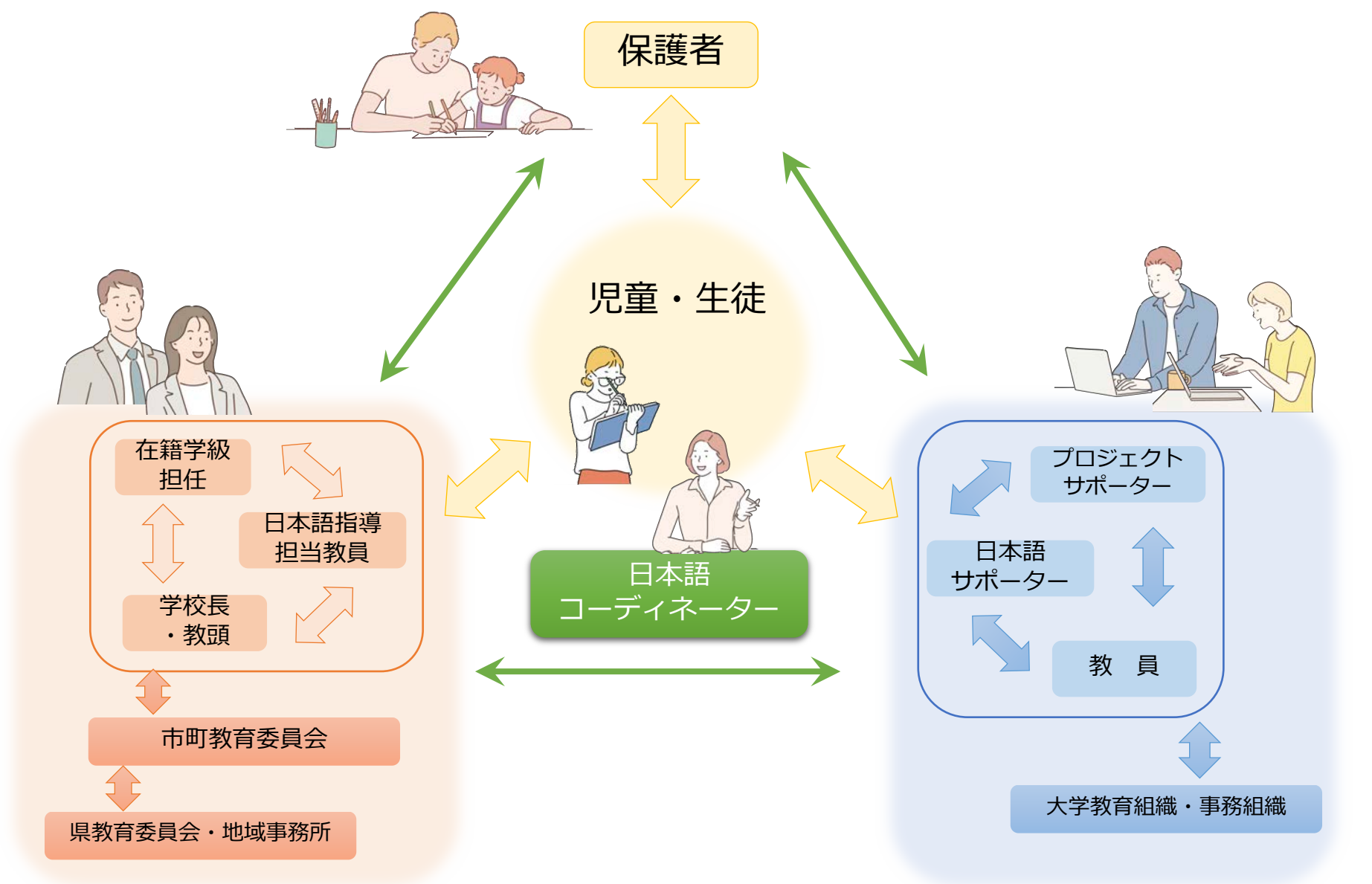
[illegible]

2カ月に一度の 「支援力評価シート」

- ・実践の振り返り・点検・改善
- ・プログラム全体の改善
- ・地域や外国人の状況の把握 など

c.f.「生活者としての外国人」のための日本語教育/支援力評価項目一覧（文化庁）

5. 今後の展望：ソーシャルネットワークとしての日本語支援



文献

- 櫻井千穂(2018)『外国にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力の発達』大阪大学出版会
- 嶋田和子(2014)「定住外国人に対する縦断調査で見えてきたこと—OPI を通して『自らの声を発すること』をめざす—」『日本語プロフィシエンシー研究』2号, pp.30-49.
- 中島和子編著(2010)『マルチリンガル教育への招待—言語資源としての日本人・外国人年少者』ひつじ書房
- 文部科学省初等中等教育国際教育課(2013)『外国人児童生徒の総合的学習支援事業：外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA』
- 山崎由紀子・金久保紀子(2010)「つくば市在住外国人に対する日本語支援状況」『筑波学院大学紀要』5号, pp.131-140.
- Council of Europe (2007). *From linguistic diversity to plurilingual education: Guide for the development of language education policies in Europe [Main version]*. Strasbourg: Council of Europe.
- Krashen, S. (1980) The input hypothesis. In J. Alatis (ed.), *Current issues in bilingual education*, Washington, DC: Georgetown University Press, pp.168-180.